

2022 年発行

競技運営マニュアル

(フィールド競技編)



空知陸上競技協会

跳躍審判員

1 任務

(1) 高さの競技（走高跳、棒高跳）

- ①高度計（走高跳）または高度計測器（棒高跳）を用いて正確に計測した高さにバーをセットして表示器に表示する。
- ②規則に則り、有効試技か無効試技かを正確に判定する。
- ③試技結果を記録用紙に記入するとともに、記録用紙との照合を入念に行い順位の確定と審判長への報告を行う。

(2) 長さの競技（走幅跳、三段跳）

- ①規則に則り、有効試技か無効試技かを正確に判定する。（踏切位置、着地位置、試技場からの離脱状況）
- ②着地点の痕跡等を確認して正確に計測する。（頭髮、着衣、手の着地痕跡に注意）
- ③試技結果を記録用紙に記入するとともに、記録用紙との照合を入念に行い順位の確定と審判長への報告を行う。
- ④競技の進行状況および順位変動、トップ8競技者が観客に分かりやすいように、記録表示器を有効活用する。

2 任務分担

(1) 主任

- ①跳躍審判長と連携をとり、各班長を通して跳躍審判員を統括し、審判上の諸問題の処理に責任をもつ。
- ②決定を下す時に疑問が生じた場合は、審判長にその決裁を求める。
- ③新記録に挑戦する場合（高さの競技）、もしくは樹立した場合（長さの競技）は必ず計測に立会い確認する。
- ④事前に用器具の準備・点検及び配置をし、定められた時間に定位置につく。
- ⑤トラブルが発生した時は、審判長に連絡するとともに競技を中断させないように策を講じる。

(2) 副主任

- ①主任の任務を補佐し、任務の遂行にあたりとともに補助員を掌握する。
- ②衣類やかばんの商標について注意する。（あらかじめマスキングテープを用意）

(3) 班長

- ①担当種目の管理、運営にあたる。
 - ア) 班の競技役員・補助員を確認し、業務分担の指示をする。
 - イ) 競技開始前に競技場所・用器具を点検し、不備があれば担当役員に連絡し、準備を完了しておく。
 - ウ) 関係役員と連絡を取り、開始予定時刻に競技が開始できるように配慮する。
- ②入場してきた競技者に、次の注意事項を周知徹底する。

- ア) 練習は役員の指示に従い、公平で安全な方法で行なうこととし、競技中の練習は禁止する。
 - イ) 競技の進行が遅れないように協力を求め、次競技者の準備時期等について指示する。
 - ウ) 競技者が競技中に当該場所から「離脱」しないよう指示する。
 - エ) バーの上げ方・予選通過標準記録を知らせる。
 - オ) パスをする競技者、同時に2種目以上出場する競技者は事前に申し出させる。
 - カ) 退場の時期、方法について指示する。
- ③競技の開始及び終了通告は、赤・白の旗を用いて合図する。
- ④計測に立ち会う。
- ⑤記録担当審判員の記録に立ち会い、終了後の記録の点検をする。



(4) 主審

①走高跳・棒高跳

- ア) 高度計の目盛りを確認し、助走路に立ってバーの左右の高さが同じか確認する。
 - イ) 新しい高さになった時、上げたバーの高さを確認する。
 - ウ) バー及びマット付近の準備が完了すれば、コーンの除去及び発生で競技者に合図する。
- 踏切の状況、バーのクリアランスを確認し、有効・無効の判定をする。判定の際は立位で、白（右手）・赤（左手）の手旗ではっきりと表示する。
- ※有効「よし」、無効「だめ」の発声はしない。

走高跳



棒高跳



②走幅跳・三段跳

ア) 主審の位置は、踏切板から1 m離れた場所に位置する。

イ) 踏切板及び砂場付近の準備が完了すれば、コーンの除去で競技者に合図する。

ウ) 有効・無効の判定をする。判定の際は座位で、赤白の手旗ではっきりと表示する。

※有効試技の判定は、着地後の砂場からの退出動作を確認したうえで白旗を掲げる。：「よし」の発声はしない。

※無効試技の判定は直ちに赤旗を掲げる：「だめ」の発声はしない。

エ) 2人で確認する。(判定)

走幅跳・三段跳



(5) 計測担当員

①走高跳・棒高跳

競技開始前及び競技中に、次のことを注意、点検する。

ア) 使用するバーの選定をする。

イ) 支柱とマットの間隔は、少なくとも10cmあける。(棒高跳)

ウ) 支柱とバーとラインテープの位置関係を確認する(走高跳)

エ) 支柱とバーの両端との間は、少なくとも1cmあける。(走高跳)

オ) バー止めは確実にねじをとめる。

カ) 高度計の目盛りを確認(垂直、左右、前後)し、一定の位置で正確に計測する。

キ) バーの向きは一定にし、上げ下げをする。

ク) 棒高跳において、支柱の移動を行う。また棒の受け取りをする。

- ケ) バーを新しい高さに上げた時、その高さを計測する。
- コ) 2m00以上の高さを測定する場合は、台(机)に乗り、測定する。(信頼性が高まる)
- サ) 新記録が試みられるときは、班長をはじめ複数の審判員が計測を確認する。

② 走幅跳・三段跳

- ア) 判定員の旗を確認し、着地点の足跡などの痕跡を正確にとらえ、機敏に踏切線に近いほうの痕跡にピンを垂直に刺す。
- イ) 距離計測装置の目盛りを2名で確認し、記録担当員に知らせる。

(6) 記録担当員

- ①記録記載、記録表示(記録表示器)とトップ8板の順位に責任を持つ、復唱しながら記載、表示する。
- ②記録用紙の記入は、全ての記入事項を洩れなく記入する。
- ③競技終了後は、正しい順位を決定し、記録の整理が正しいか確認をする。常に複数で全ての試技を記録し、点検する。

※定められた記号

成功：○ 失敗あるいは無効：× パス：— 試技放棄：R

(7) 競技者担当員

- ①競技者の掌握と管理をする。(助言に対する注意・指導とマスキングテープを用意し、商標に対する注意)
- ②トイレ等で競技場を離れる時は、必ず同姓が同行する。
- ③助走マークまたはテープを競技者に渡し、終了後は撤去、返却させる。
- ④競技者に試技順・進行状況を知らせる。(ボード等の活用)
- ⑤試技順の変更は、班長、記録担当員と連絡を取り、適宜対処する。
- ⑥入賞者を確保し、ミックスゾーンに誘導し、表彰、報道係に引き渡す。試技が終了した競技者の退場を、適宜指示・誘導する。
- ⑦トップ8までに入らなかった競技者は、マーシャルと連絡をとり、逐次退場させる。

(8) 走幅跳・三段跳 着地点担当員(砂場)

- ①砂場の表面は、踏み切り板と同一水準になるように管理する。
- ②痕跡判定の補助をする。
- ③試技終了後、砂場を前①の水平になるように補助員に指示し、最後の仕上げをする。

3 留意事項

(1) 審判員の入・退場

- ①審判控室で待機する。控室を離れる時は主任へ連絡する。

- ②競技開始時間の70分前（棒高跳は2時間20分前）までに用器具の準備・設置を行い、一旦退場してから改めて入場する。
 - ア) 入退場は班長を先頭に2列縦隊で隊列を組んで整然と行う。
 - イ) 入場後直ちに用器具の確認を行う。
 - ③競技終了後は直ちに退場し、改めて用器具撤収のため入場する。
- (2) 準備、競技者の練習
- ①新しい用器具の取り扱いは、十分に熟知しておく。
 - ①用器具の準備・設置については、用器具係と綿密な打ち合わせを行い点検する。
 - ②練習は危険防止のため、審判員の指示に従って、プログラム記載順に公平に行わせる。競技中の練習は禁止する。
 - ア) 走高跳：バーをかけて公式練習2回。
 - イ) 棒高跳：ゴムバーをかけて公式練習2回。
それぞれの練習の高さ、アップライトで跳躍。
 - ウ) 走幅跳、三段跳：公式練習2回
 - ③練習・本番は、「赤」・「白」の旗で示す。
- (3) 同時に2種目以上出場者の取り扱い
- ①競技開始前に、必ず申し出るよう指導する。
 - ②トラック競技と兼ねている場合は、トラック競技が優先となる。
競技者に与えられた試技順、時間に不在の時の扱いは、下記の通りとする。
 - ア) 走幅跳、三段跳：その時間が過ぎれば「パス」扱いとなる。
 - イ) 走高跳・棒高跳：事前に申告しておけば「無効試技」又は「パス」にすることができるので競技者に確認する。
- (4) その他
- ①競技者に対する助力
競技区域外で競技者とコーチとのコミュニケーションを容易にするとともに、競技の進行の邪魔にならないようフィールド競技では、競技場所に近接した観客席の一角にコーチ席（コーチングエリア）を設けることが望ましい
 - ②取材可能なエリアを確保する。
 - ③用器具は故障・破損の有無を確認してから返納する。
 - ④競技場内における競技者に対する助言・助力に注意する。
 - ⑤競技者がある場のおおよその風向きと風力を知ることができるように、種目により異なるが踏切地点の近く及び助走のスタート地点等に吹流しを置く。
 - ⑥跳躍審判長の指示のある時のみ競技場所を変更する。
 - ⑦雨天時の留意
 - ア) 競技者の待機所（テント類確保）
 - イ) 用器具の保護（マット、ポール）

- ウ) 記録用紙の保護（記録用テントの設置、ナイロン袋の使用）
- エ) 審判員の服装（レインスーツの使用、傘は極力使用しない。）
- ⑧競技が終了したら記録担当から記録用紙を受け取り、記録・順位を確認の上、
審判長の署名を得て記録・情報処理員に手渡しする。

(5) 補助員の任務

- ①バーをバー止めに乗せる。
- ②指示に従いバー止めを上下させる。
- ③バーの揺れを止める。

投てき審判員

1 任務

(1) 鋼鉄製巻き尺を使用する競技

- ①規則に則り、有効試技か無効試技かを正確に判定する。
- ②測定した結果を、フィールド記録表示器に表示する。
- ③結果を記録用紙に記入し、内容を確認して順位を決定する。

(2) 光波距離測定装置を使用する競技

- ①規則に則り、有効試技か無効試技かを正確に判定する。
- ②落下点の痕跡等を確認し、有効試技か無効試技かを正確に決定する。
- ③結果を記録用紙に記入するとともにフィールド記録表示器に表示する。
- ④結果を記録用紙に記入し、内容を確認して順位を決定する。

砲丸投



円盤投・ハンマー投



やり投



2 任務分担

(1) 主任

- ①投てき審判長と連携をとり、各班長を通して投てき審判員を統括し、審判上の諸問題の処理に責任をもつ。
- ②決定を下す時に疑問が生じた場合は、審判長にその決裁を求める。
- ③新記録が樹立された場合は、計測に立ち会い記録を確認する。その場合、審判長に報告をし、速やかにアナウンサーにも連絡する。
- ④審判員及び補助員を掌握し、それぞれの任務分担を明確に、指示する。
- ⑤競技に必要な用器具・備品の準備と点検を行う。

- ⑥トラブルが発生した時は、審判長に連絡すると共に競技を中断させないように策を講じる。
 - ⑦マーシャル及び関連する競技役員と連携を保ちつつ、危険予防に努める。
- (2) 副主任
- ①主任の任務を補佐し、任務の遂行にあたるとともに補助員を掌握する。
 - ②衣類やかばんの商標について注意する。(あらかじめマスキングテープを用意)
- (3) 班長
- ①担当種目の管理・運営にあたる
 - ア) 班の競技役員・補助員を確認し、業務分担の指示をする。
 - イ) 競技開始前に競技場所・用器具を点検し、不備があれば担当役員に連絡し、準備を完了しておく。
 - ウ) 関係役員と連絡を取り、開始予定時刻に競技が開始できるように配慮する。
 - ②入場してきた競技者に、次の注意事項を周知徹底する。
 - ア) 練習は役員の指示に従い、公平で安全な方法で行なうこととし、競技中の練習は禁止する。
 - イ) 競技の進行が遅れないよう協力を求め、次競技者の準備時期等について指示する。
 - ウ) 競技者が競技中に当該場所から「離脱」しないよう指示する。
 - エ) 予選通過標準記録を知らせる。
 - オ) パスをする競技者、同時に2種目以上出場する競技者は事前に申し出させる。
 - カ) 退場の時期、方法について指示する。
 - ③計測に立ち会う(砲丸投では、主審が読み上げる記録を確認する)
 - ④記録担当審判員の記録に立ち会い、終了後の記録の点検をする。
- (4) 主審
- ①競技の開始時は、サークルや助走路中央で赤白手旗を平行に頭上高く上げる。終了は頭上で交差させる。
 - ②呼出係が競技者にナンバーを告げた後、コーンで競技者に開始の指示をする。
 - ③投てきの有効・無効の判定を赤白旗で表示する。
 - ④砲丸投では記録を読み上げる。
- (5) 主審補佐
- ①円盤投、ハンマー投において主審の反対側に立ち、リング判定を補佐する。
- (6) 記録・呼出担当員
- ①入場してきた競技者の点呼をおこない、アスリートビブスを確認する。
 - ②記録用紙に必要事項(開始時刻等)をまれなく書き込み、記録を復唱して記入する。
 - ③競技者のアスリートビブスを常に確認し、定められた記号でその都度記入する。

- ④試技順に競技者を呼び出す。
- ⑤ペグ担当が、番号を確認したか確認する。
- ⑥競技者に試技順・進行状況を知らせる。
- ⑦競技終了後は、順位を決定し、記録の整理が正しいか点検する。
- ⑧記録は少なくとも2人の審判員によって個別に記録し、点検をする。また、マグサインの記録を確認する。

番号	氏名	所属	1	2	3	3回の最高記録	TOP8の順位	4	5	6	記録	順位	備考
a	A		15.04	15.24	×	15.24	6	15.18	×	×	15.24	3	
b	B		15.21	15.49	15.61	15.61	8	15.70	15.41	15.71	15.71	1	
c	C		15.30	15.36	15.28	15.36	7	15.46	×	15.33	15.46	2	
d	D		13.47	×	14.65	14.65	3	×	14.81	14.70	14.81	6	
e	E		14.73	14.75	14.80	14.80	4	15.08	15.10	×	15.10	4	
f	F		13.83	14.06	×	14.06							
g	G		×	×	×	NM							
h	H		14.56	×	14.50	14.56	2	×	×	14.38	14.56	8	
i	I		13.57	13.39	14.26	14.26							
j	J		14.76	14.83	14.75	14.83	5	14.86	14.99	15.02	15.02	5	
k	K		14.13	14.30	14.46	14.46							14.30
l	L		14.26	14.40	14.46	14.46	1	14.56	14.67	×	14.67	7	14.40

上位8人の最後の通過順位に同記録があるため2番目の記録によって通過者を決めた例

(7) 競技者担当員

- ①競技者の掌握と管理をする。(助言に対する注意・指導とマスキングテープを用意し、商標に対する注意)
- ②助走マークを競技者に渡し、終了後は返却を徹底させる。
- ③入場してきた競技者の点呼する時、記録担当と協力しアスリートビブスを確認する。
- ④競技者に試技順・進行状況を知らせる。(ボード等の活用)
- ⑤やり投げでは次のことに注意する。
 - ア) 所定の「握り」のところで握っているか。
 - イ) 肩または投げる方の腕の上で投げているか。
 - ウ) 投げる時、振りまわしていないか。
 - エ) 投げる用意をしてから、やりが空中に投げられるまでの間に、競技者がその背面をスターティングラインに向けるように完全に回転させていないか。

オ) やりが投てき動作中、あるいは空中でこわれた時は、規則に従って投げられたものであれば1回の試技には数えない。このとき、競技者が体の平衡を失って反則の動作をしても無効試技とせず、新試技を許される。

⑥砲丸投では次のことに注意する。

ア) 砲丸投は肩から片手で投射する。

イ) サークル内で投射を始めようと構えた時には、砲丸はあごまたは首につけるか、あるいはまさにふれようとする状態に保持する。

ウ) 両肩を結ぶ線より後方にもっていないかを注意する。

⑦トイレ等で競技場を離れる時は、必ず同姓が同行する。

⑧試技順の変更は、班長・記録担当と連携をとり適時対処する。

⑨入賞者を確保し、ミックスゾーンに誘導し、表彰・報道係に引き渡す。

試技が終了した競技者の退場を適宜指示・誘導する。

⑩トップ8までに入らなかった競技者はマーシャルに連絡をとり、逐次退場させる。

(8) 痕跡判定担当員

①主審の連絡や競技の開始・終了についての指示に連携して合図する。

②速やかに着地点に行き、痕跡を確認してマークを置く。

③有効角度外に出た場合、角度線外に向かい両手を頭上に伸ばし、「ファウル」の表示をし、「ダメ」と大きな声で主審に伝える。

④やり投げでは、落下判定担当と連携し速やかに行動する。

⑤円盤は、常に自分の2m以内の落下を目標に、安全に円盤に向かって走っていくように心がける。

落下地点近く(2m以内)の真横で確認することがポイントである。

⑥痕跡にピンを打ち込み、計測が終わっても記録表示板の記録表示を確認してから、ピンを抜く。

⑦落下地点の痕跡は、計測後直ちに整地するように心がける。

(9) 落下判定担当員

①やりの頭部が、他のどの部分よりも先に地面に落下したかを判定する。



②落下地点に素早く動き、できる限り真横から見て判定する。

③有効は白旗、無効は赤旗で主審に示す。

④競技開始は、サークルや助走路中央で赤白手旗を平行に頭上高く上げる。

終了は頭上で交差させる。(主審→進行)

(10) 反射鏡担当員

- ①素早く落下地点に行き、反射鏡をセットする。
- ②光波計測員と手で合図し連携を図る。

(11) ペグ担当員

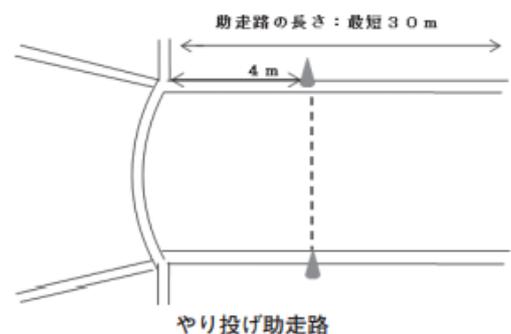
- ①日本記録、大会記録標識を立てる。
- ②記録担当が呼び出したペグナンバーを示し、確認する。
- ③ペグはフィールド記録表示板の記録を確認し、ペグを角度外(30cm程度)のリボンロッドの数値を確認し、立てる。
- ④正面から見やすく、他のペグと重ならないように立てる。
- ⑤2回目以降は、次のペグを「↓」表示器使い、観衆に知らせる。

(12) 器具運搬・補助員担当係

- ①補助員の役割分担(競技者、器具運搬)を決め、任務内容を確認させる。
- ②補助員に器具の運搬方法を指示する。
- ③補助員の安全を考え導線を指示する。
- ④ペグ担当員を兼ねる。

3 留意点

- (1) 競技者は、投てき物が落下するまではサークルや助走路から出てはならない。
- (2) サークル内に入ってもまだ試技は開始されていないか、試技を始めてから急に動作を中断し一度サークル外に出ても、規則に反しない限り無効試技とはならず、試技時間内であれば試技を続けることができる。
- (3) サークルを使用する種目は、競技者がサークル後半から出たことを確認してから白旗を上げる。
- (4) ハンマー投げは、予備のスウィングやターンに先だってサークル内または外の地面にハンマーの頭部をつけてもよい。
- (5) ハンマーの頭部が、地面やサークルの縁枠の上に触れても、不正な投てきとはみなさない。
他の規則に反しない限り、一旦動作を中断して再び投げの動作に入ることができる。
- (6) やり投げにおいて、有効試技後、痕跡判定員が白旗を上げてから、判定員は白旗(右手)を上げる。
- (7) やり投げにおいて、競技者が試技の後スターティングラインから4m後方の仮想ラインから後方に下がったときは正しく助走路を離れたとみなしてよい。



(8) 助力に対する注意

ア) 投げる助力とするために、どのような工夫もしてはならない。

- ・ 2本以上のそれぞれの指が独立していないテープの巻き方や、身体に重りをつける。
- ・ ケガ等のため手や指にテープを使用する場合は、競技開始前に審判員主任に見せなければならない。等

イ) ハンマー投げ以外で手袋の使用は認められない。ハンマーの手袋は裏表とも滑らかなもので、手袋の指先は親指を除いて、切れているものでなければならない。

ウ) 握りをよくするために、手だけに適切な物質を使ってもよい。

(9) 審判員の入・退場

① 審判控室で待機する。控室を離れる時は主任へ連絡する。

② 競技開始時間の70分前までに用器具の準備・設置を行って、一旦退場してから改めて入場する。

ア) 入退場は班長を先頭に2列縦隊で隊列を組んで整然と行う。

イ) 入場後直ちに用器具の確認を行う。

③ 競技終了後は直ちに退場し、改めて用器具撤収のため入場する。

(10) 準備、競技者の練習

① 新しい用器具の取り扱いは、十分に熟知しておく。

② 用器具の準備・設置については、用器具係と綿密な打ち合わせを行い点検する。

③ 練習は危険防止のため、審判員の指示に従って、プログラム記載順に公平に行わせる。競技中の練習は禁止する。

④ 練習・本番は、「赤」・「白」の旗で示す。

(11) 同時に2種目以上出場者の取り扱い

① 競技開始前に、必ず申し出るよう指導する。

② トラック競技と兼ねている場合は、トラック競技が優先となる。

(12) その他

① 競技者に対する助力

競技区域外で競技者とコーチとのコミュニケーションを容易にするとともに、競技の進行の邪魔にならないようフィールド競技では、競技場所に近接した観客席の一角にコーチ席（コーチングエリア）を設けることが望ましい

② 取材可能なエリアを確保する。

③ 用器具は故障・破損の有無を確認してから返納する。

④ 競技場内における競技者に対する助言・助力に注意する。

⑤ 雨天時の留意

- ア) 競技者の待機所（テント類確保）
 - イ) 用器具の保護
 - ウ) 記録用紙の保護（記録用テントの設置、ナイロン袋の使用）
 - エ) 審判員の服装（レインスーツの使用、傘は禁止）
- ⑥競技が終了したら、記録担当から記録用紙を受け取り、記録・順位を確認の上、審判長の署名を得て記録・情報処理員に手渡しする。